

## ご挨拶とご提言

2013年7月2日

堺屋太一

座長に指名されました堺屋太一です。大阪の将来にも関わるこの会議を進行するに当り、ひと言申し上げます。

私は頂きました資料を熟読、府市民および庁内の方々の様々な御意見を知りました。ここで感じたことは、規制を堅持または強化するか、緩和または廃止するかは、本質的に倫理観にかかわる問題だ、ということです。

日本の倫理観は時代と共に変化して来ました。

徳川時代には、「社会の安定」こそが唯一最高の倫理であり、そのためには安全も利便も効率も楽しさも抑制されました。大井川に敢て橋を架けなかったのも複数の帆柱の船舶を許さなかったのもこのためです。

「黒船（米国太平洋艦隊）」は、これに対して「進歩」という倫理を示しました。これによって徳川幕藩体制は一挙に崩壊します。

明治から昭和はじめまでの倫理は忠勇と勤勉でした。これによって日本は短期間で初期産業革命を終え、殖産興業の実を上げました。

戦後の日本の倫理は、効率、安全、平等の3つです。戦前には崇高なものとした勇敢、忠孝などの武人的美德は「正義」ではなくなりました。この中でも、1990年までの高度成長期には「効率」が重視されましたが、その後は「安全」と「平等」に重点が移っています。このことは、府市民や庁内の御意見にもよく反映されています。

もちろん、「安全」と「平等」は重要な倫理であり、今後とも守り続けなければなりません。しかし、安全と平等だけを強調すれば規制の強い「監獄社会」ともなり兼ねません。監獄ほど安全で形式的な平等が保たれるところはないのです。

これからの国際化と少子高齢社会を考えれば、「効率」もまた重要です。

しかし、本当に幸せな社会を創るためには「楽しさ」が必要です。諸外国に比べて、今日の日本社会に最も欠けているのは「楽しさ」です。

近年、様々な規制が強化され「楽しさ（自由）」がなくなりつつあります。特

にわが大阪においては、楽しさの創造が軽視されているように見えます。

人生において人々が心から欲するのは「楽しい人生」です。古い社会主義体制が崩壊したのも「楽しさの欠如」の故でした。人類文明は今や知恵の時代、楽しさの創造こそ重要になっています。

この現実を正視すれば、効率、安全、平等と並ぶ倫理として「楽しさ」を採り入れるべきでしょう。

「楽しさ」は経済成長（効率）の手段ではありません。それ自体が人間性の求める倫理です。

本会議においても、A、B、C、Dの4分野において、利便、効率を追求すると共に、「楽しさの増進」を重要な尺度として加えたい、と思います。

また、改めて府市民および市内の方々に楽しさの増進についてのアンケートや意見聴取を実施したいと思います。

大阪から新しい時代をはじめるにあたって、新しい倫理の尺度を提示し、周回遅れといわれる日本社会の変改を推進したいと思います。

委員の方々の御意見を伺いたいところでもあります。